

第12回(2021年度)助成研究成果表彰 受賞者

助成研究成果表彰は、優れた成果をあげた助成研究者に与えられるもので、本年度も12名の応募があり、技術委員会による厳正な審査により各賞の候補者を選考し、5月27日開催の第45回通常理事会において、3名の方の受賞が決定いたしました。

なお、表彰式・受賞記念講演会は、別途開催する予定です。

1. 理事長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	日比野 忠史	所属	広島大学大学院先進理工系科学研究科・准教授
助成研究期間	3年間 : 2017年11月～2020年10月		
研究テーマ	環境浄化性能を高めるための鉄鋼スラグの効果的な利用法の提案		
研究成果	氏は、鉄鋼スラグと有機泥の混合泥が高い発電性能を持つ微生物燃料電池となることを明らかにするとともに、藻場形成に有効な鉄イオンの溶出を促進するなどの海底泥の高い浄化性能を実証した。新たな創エネルギー、環境修復材としての鉄鋼スラグの幅広い活用につながる実用性の高い研究成果である。		

2. 技術委員長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者に贈られる。		
氏名	今宿 晋	所属	東北大学金属材料研究所・准教授
助成研究期間	2年間 : 2018年11月～2020年10月		
研究テーマ	製鋼スラグの再利用率と品質を向上させるための新規分析法の確立		
研究成果	氏は、X線励起ルミネッセンス法を用いて、路盤材の膨張破壊を引き起こす製鋼スラグ中の遊離CaOを短時間で簡便に分析する新たな手法を確立した。スラグの品質を管理するオンサイトでの迅速定量分析につながる有効な手法として、学術的にも社会応用的にも意義の大きい研究成果である。		

3. 鉄鋼技術賞

賞の性格	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	高辻 義行	所属	九州工業大学大学院生命体工学研究科・助教
助成研究期間	2年間 : 2017年11月～2019年10月		
研究テーマ	多孔質亜鉛電極によるCO ₂ 資源化とその反応機序解明		
研究成果	氏は、安価な亜鉛を陽極酸化して多孔質化することで、CO ₂ を高い選択性と効率で電解還元して資源化できる触媒電極を開発した。さらに、反応場の可視化による機構解明にも成功した。鉄鋼業も挑戦するカーボンニュートラルの実現への貢献が期待される発展性の高い研究成果である。		

以上